

ブリおよびヒラマサの種苗生産過程におけるウイルス性腹水症の疫学調査

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 西岡, 豊弘, 塩澤, 聡, 小金, 隆之, 小磯, 雅彦, 虫明, 敬一, 有元, 操
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014568

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ブリおよびヒラマサの種苗生産過程におけるウイルス性
腹水症の疫学調査

西岡豊弘・塩澤 聡・小金隆之・小磯雅彦・虫明敬一・
有元 操

1987年～2000年の14年間に行ったブリとヒラマサの
種苗生産および中間育成でのウイルス性腹水症 (VA) の
発生状況に関する疫学的調査を行った。親魚の養成およ
び産卵条件と VA 発生の有無との間には特に関係はみら
れなかった。14年間にブリでは11年、ヒラマサでは8
年の事例で VA が発生した。魚種間で発生状況に差はな
く、発病サイズが全長約 20～200 mm、発病水温が約
22～24℃であった。感染経路は、親魚からの垂直伝播が
示唆され、VA の防除にはウイルス保有親魚の選別と飼
育水温を 25℃以上に加温することが有効と考えられた。

栽培技研, 33(2), 77-83, 2006